

自治講習所家畜日誌——昭和五年度（抄）

〔表紙〕昭和五年度 第十五期 家畜日誌 山形県自治講習所農場家畜当番

〔様式については写真を参照されたい。朝昼晩の給餌内容の表については省略する。五月十一日以降は、月日、天気、当番、感想等のみを記す。〕

家畜当番（一名三日交代）

任務、家畜の飼料の給与、家畜の手入、畜舎の管理

（乳牛 鮮牛 山羊 鶏の各係の助手としての勤務）

注意

一、農人の本領に立脚し飽く迄親切に愛育すべし。

一、飼料の給与、手入は懇切丁寧にすべし。

一、畜舎は良く整理し餌槽を清潔ならしむべし。

○家畜に悪癖のつくは飼養者の不親切の反映と知るべし。

記入事項

一、月日、天候、当番者氏名

一、其日の飼料給与量

一、家畜の健康状態、飼養管理上当番として種々注意すべき事項

一、其他特別なる事項（後日の備考となるべきもの）

五月八日 晴 佐藤健二

一、朝食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、馬鈴薯 二貫匁 全

一、フスマ 四升 全

一、中食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 五升 全

一、夕食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 全

一、フスマ 四升 馬鈴薯 三貫匁 全

一、家畜健康 良シ

五月九日 晴後雨 佐藤健二

一、朝食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 三升 全

一、馬鈴薯 二貫匁 全

一、中食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 三升 全

一、夕食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 三升 全

一、健康状態 良シ

五月十日 佐藤健二

一、朝食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 三升 全

一、大根及カブ 三貫匁 全

一、中食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 三升 全

一、大根 四貫 全

一、夕食ノ分

一、藁及乾草 六貫匁 六頭分

一、フスマ 四升 全

健康状態 良し

一、注意、糞水フスマは良く合セル事が大切であります。毎日忘れない様に水をやる事。又一番大切な事は食樽をいつでもきれいにして食料を給へる事。一日一回位少々ノ塩を給へる事。でない時には病気をする事有ります。最後に家畜は大切に愛育しませう。以上。備考、本日は今年初て山ノ内に私等ノ食料運送の為鮮牛二頭行き出初には春牛の為非是〔常?〕に荒くて、さすが操縦者も手こずりました。

五月拾一日 小雨 日曜日 当番 羽角順太郎

五月拾二日 月 当番 羽角

五月拾参日 曇 火 当番 羽角順太郎

鮮牛二頭で午前午後堆肥運搬ス

感想、家畜当番も何んら支障なく終りました。家畜は事に親切ニ取あつかはなければならんと思ふ。拾二日午後拾一時には弥栄号雌一匹分娩ス。坂野大宮両君、高橋先生の親切なる手入によつて何んらいじう〔異常〕なく分娩しました。弥栄号分娩したる故、各自静かに畜舎を出入下さる様御願ひします。

五月拾四日 水曜日 当番 本間直二郎

午前中に厩肥を出す。午後奉仕号、肥料運般〔搬〕す。

五月拾五日 木曜（晴） 当番 本間直二郎

五月拾六日 金曜日（晴） 当番 本間直二郎

感想、三日間家畜当番中感じた事として第一家畜には総て親切丁寧なる事も特に家畜を驚かせざる事も尚畜舎内は常に清潔整頓し特に餌槽の清潔に注意すべき事。以上。

五月拾七日 土曜日 曇り 当番 伊藤儀一

五月拾八日 日曜日 晴 当番 伊藤儀一

五月拾九日 月曜日（休み） 当番 伊藤儀一

所憾（感）、始日は何となく牛の手入等は勿論飼料を与へるにも牛と思ふと一時は嫌な様に感じられました。然し度重ねて飼育すると牛は牛としての独特の愛らしきがたつぷりで非常に飼料を与へるにも牛の内心も知られ安心して手入も又飼料も愉快になつて来ました。殊に子牛等は無邪気で一増（一層）可愛らしく有つた。

弥栄号は其の自分の子を時々舌にて掃除をしてやる。牛の様な物でもこうして子を可愛がりて不潔なる事、厭はずあゝした愛し振りて有る。此々に人間と比較する。其の人間味の奥には実に何とも云へぬ有難い尊い云ふに云はれぬ深い教へを受けました。

- 一、飼料を第一に注意し合ふ事
- 二、御互に畜舎も出来得る限り整頓する事
- 三、家畜当番以外に乱に飼料を与へない事
- 四、家畜を出来得る限親切に飼育する事

以上

五月二十日 晴 風強し 長岡正男

五月二十一日 晴 長岡正男

鶏舎の準備のために二日間当番を行ふ。

一、牛の敷藁が清潔を保つ様に気を付ける事

一、餌槽を清潔にする事

一、山羊の給水を忘ざる事

弥栄の子牛は愈々元気旺盛と成つた鮮牛は中々分娩しないが近い中だらう。家畜全部異状なし。

以上。

五月二十二日 晴 五十嵐寿作

鮮牛の奉仕号は岩瀬君と堆肥運搬しました。玉蜀黍、馬鈴薯、蕪菁は煮タモノナリ。家畜全部異状ありません。

五月廿三日 午前時々強風雨来襲 午後曇 当番 五十嵐寿作

鮮牛は午後田中君、伊、正君とハーローかけを行ひました。家畜全部異状ありません。

五月廿四日 晴風強し 当番 五十嵐寿作

午前四時鮮牛新奉仕号が子（牝犢）を分娩しました。

五月廿五日 雨後晴 当番 五十嵐寿作

家畜全部に異状ありません。

感想、四日間家畜当番中感じた事は

- 一、家畜を親切丁寧に飼育する事
- 一、舎内は常に清潔、整頓なる事
- 一、餌は清潔に給与する事

以上

五月二十六日 月曜日 晴 当番 田中秀穂

鮮牛小牛、田中と小林君ハーローをかける時間は五時間、反別は一反五畝歩。

所感、親切に牛の体をブラツシで奇麗にしてやりました。それで牛とだんだん親しくなるやうな気がします。それから山羊の牡をあまり皆んながいぢめるから、すねてしまふので可愛相に成りなでてやり頬をあてゝやたらうれしげに大人しくして愛らしい感じが致しました。おすなるが故に生徒に逆〔虐〕待されるのか、それ共生徒が荒みたまを多量に持つて居るのでそうするのか知りませんが、僕はおすの毛の光りがあつて長く威厳がありて善いと見ました。只下の毛が褐色になつて居るのをどうかして奇麗にしてやりたいと思つて居る。

五月二十七日 火曜日 晴 当番 田中英穂

鮮牛小牛ハーローを掛ける。今日は非常に善く働いた。反別二反五畝時間四時間。

五月二十八日 水曜日 当番 田中秀穂

五月二十九日 木曜日 晴 当番 大宮門四郎

一、家畜全部健康ニテ以上〔異状〕ナシ

二、家畜（仔牛ノ出すニ注意スベシ）

五月卅日 金曜日 雲雨 当番 大宮門四郎

一、此処数日間ハ糞台ヲ多量ニ給与セシムルコト

二、当番ニ任ジタル者ハ毎朝夕畜舎ノ高窓ノ開閉ヲ行フコト

三、家畜全部以上ナシ

感想備考

一、家畜ニ対シテハ充分丁寧親切デアラネバナラス。

二、舎内ノ温度ヲ適度ニ加減スルコト。

三、舎内ハ常ニ清潔整頓、殊ニ給飼（給餌）後ハ充分注意ヲ□スルコト。又餌桶ヲ給飼前ニ洗ヒ流シテ後給飼スルコト。敷藁ハ毎日夕方方入ルコト。

四、飼料充分配合シテ給ヘルコト。

帰宅ノ都合上二日間デ終ル。当番ニ任ジタル自分トシテハ多忙ノ様デアツタ様ニ感じマシタ。而シ心此処ニ至レバ何ノ感じモ忘レテ給飼ノ餌ニ突込ンデ食シテ居ル有様ヲ見テハ、実ニ愉快デ、氣持ノ良イモノデアリマス。

以上

五月卅一日 土曜日 曇后晴 当番 渋谷繁太郎

家畜全部壮健なり。

六月一日 日曜日 晴天 当番 渋谷繁太郎

家畜全部に異状なし

六月二日 月曜日 雨后曇 当番 渋谷繁次郎

家畜全部に異状なし。

（所感）牛はおそろしいと思っていたので仲々牛をなごやる気は云ふまでもなく、側によるのもいやであつたが、今日まで当番に当つてようやく牛をなごやる事が初日より第二日第三日と次第に牛□対する親しみが出来て来て最後には何もおそろしく無くなった。私は牛に対して和らかくと向ふと牛もおとなしいものであると感じた。（以上）

六月三日 火曜日 曇雨時 小林洸

六月四日 火曜日〔水曜日〕 小林洸

六月五日 水曜日〔木曜日〕 小林洸

所感、晴天の日は窓を明けること。舟を清潔にして餌をやること。終

六月六日 木曜日〔金曜日〕 当番 鈴木三郎

何時からか気になつて居つた家畜当番はやうやく第一目を終えた。当番を指定されたとき異様な感に打たれた。何となれば牛が恐しい為である。朝は元気を出してやつたところで案外気強く感じたので安心した。昼晩とやつた。晩になったら漸く牛に手入れをやられる様になつた。僅か一日でも自分が飼ふと親しみが感じるものだつた。朝食残しの牛もあつたが今日も皆が健全だつた。乾草を藁に交へると食ひが悪い様だ。塩も黴もなくなつた。然し牛は元気で食べてくれるので有難い。終り。

六月七日 金曜日〔土曜日〕 当番 鈴木三郎

第二日目の感想としては先日より慣れて来た様だつたが未だ恐しい。婆さん牛は田中君と富並行き夕暮帰る。つかれた様だつた。午後須藤君他三名厩肥出し。乾草七束入れる。他に異状なし。

六月八日 土曜日〔日曜日〕 当番 鈴木

鮮牛ノ子、僕、田中氏と富並行き、天気なりき。午後山羊の肥を出す。親しみを増すのは不思議なものだ。自分が飼つては可愛らしいものである。以上。

六月九日 月曜日 当番 今野重四郎

家畜全部異状なし。

六月十日 火曜日 当番 今野重四郎

昨日迄は何んとなく気味悪く、牛の側にも寄れない程の牛嫌いの僕も自分で食物をやつたりして見ると随分可愛いものだ。御互に親切に家畜を取あつかはねばならぬ。

六月十一日 水曜日 当番 今野重四郎
厩に乾草三束入れる。当番終り。

所感、本日富並に朝鮮仔牛をつれて田中氏行。

一、朝起床後すぐに畜舎の窓を開く事を忘れぬ事

二、家畜は充分親切に取あつかふ事

三、食桶は清潔にして糞は充分にかき合せ給飼すべし。

六月十二日 木曜日 当番 武田立男

一、敷藁として乾草二束入れる。

二、鮮牛の子供は田中君と富並に行きしが元気であつた。

六月十三日 金曜日 当番 武田立男

一、敷藁トシテ乾草七束入レル

二、鮮牛ノ子供ハ田中君ト富並ニ行ク

六月十四日 土曜日 当番 武田立男

一、今日ヨリ豚二匹来ル

二、鮮牛ノ子供ハ田中君ト富並ニ行ク

所感

一、家畜ハ充分親切ニ取リアツカフベシ

二、食桶ハ清潔ニ置クベシ

三、糞ハ充分ニカキ合セテ給飼スベシ

六月十五日 日曜日 当番 伊藤正憲

一、家畜全部、牛健康以上ナシ

一、田中君ガ鮮牛ノ子牛ヲ富並迄荷物運搬ニ行ク

一、今日ノ夜豚一疋死ヌ

六月十六日 月曜日 当番 伊藤正憲

以上〔異状〕ナシ

以上

六月十七日 火曜日 当番 伊藤正憲

所感、農場に来てより始めて家畜当番が来たので喜んで致しました。牛は私の内心をしつたので安心しております。此れより尚一層牛を大切にして働かせるやうに致しませう。
注意

一、家畜を親切丁寧に致しませう。

一、舎内常に清潔に致しませう。

豚一疋死にましたので家畜が責任あるので互に気をつけませう。 三日間、以上終り。

六月十八日 水曜日 晴 当番 石井説雄

鮮牛小牛富並迄俵運搬すべく出発する。夕方帰る。家畜全部異状ありません。

六月十九日 木曜日 晴 当番 石井説雄

朝鮮牛富並迄運搬すべく行く。午後七時半頃帰る。家畜全部異状ありません。

感想

一、藁切機械は丁寧に使用する事

一、餌桶の清潔であるや否で牛の食口の増減あるから注意して下さい。又餌と水の混合を良くする事

一、午前中澁谷君外三名で厩出をする。乾草六束入れる。 以上

六月廿日 金曜日 晴 当番 石井説雄

感想

三日間での畜舎当番で感じたる点は家畜を丁寧にし、舎内は清潔制屯〔整頓〕し山羊給水を忘れざる事。畜舎内の温度は平均にし□□は空気の流通を良くする事が大切であると思ふ。又豚の餌は充分に入る事も必要と思ふ。三日間家畜全部異状ありません。以上

六月廿一日 土曜日 晴 当番 佐藤賢三

一、鮮牛八田中君、佐藤君ト子供トバアサン牛ガ富並迄荷物運搬ニ行く。石灰二疋デ四俵

二、敷藁トシテ乾草、牛三束、緬羊二束、豚一束入レル

三、緬羊ガ二頭来タ 以上

六月廿三日 日曜日 曇り 当番 佐藤賢三

- 一、佐藤健二君と鮮牛子供が富並迄飼料運搬に行ク
- 二、敷藁として乾草、三束入れる

六月廿三日 月曜日 曇り 当番 佐藤賢三

- 一、鮮牛子供共ニ二疋富並迄荷物運搬ニ行ク
- 二、豚ニ馬鈴薯の芽ヲ入レテ早ク注意サレテ良ツタ。坂野さんヨリ
- 三、敷藁トシテ乾草三束入レル

所感、農場ニ登ツテカラハジメテノ家畜当番ガ当ツタ為喜ンデ牛ニセハシタ。此ノ後モ一層牛ヲ丁寧ニシテ働クヨウニシマス。又食桶ヲ清潔ニシテ外舎内又ハ高窓ヲ朝夕開閉スルヨウニシマス。

注意

家畜ニ馬鈴薯ノ芽トカワヲ食桶ニ入ヌヨウオ願ヒマス。入ルトオレルカラ当番ワ責任アリマスカラ注意シマス。

六月二十四日 火曜日 晴 相田助左エ門

残飯ハ毎食全部豚ニ与ヘタリ（一食一バケツ）
子牛ヲ親ヨリ別居サセル為メ阪野君ト厩ヲ南側ニ二ツ整理シマシタ。敷乾草二束ヤル。家畜全部異状ナシ。

六月二十五日 水曜日 雨 相田助左エ門

朝仕事ノ時阪野君ト厩ヲ完全ニ造リタリ。ソシテ子牛ヲ親ヨリ別居サセタリ。奉仕号、無名鮮牛、富並ニ炊事ノ用品、俵運ビニ行ケリ。朝弥栄号ヨリ乳、約五合シボリタリ。

六月二十六日 木曜日 曇 相田助左エ門

・豚ニハ晩ダケ糞一升ヤリマシタ
・緬羊ニハ何時デモ草アルヤウニヤリタリ。塩モ何時モアル様ニシマシタ。糞ハ水ト練リ合セテヤリマシタ。

所感、三日の間数頭の畜類を無事に養育し得た事を心から神に感謝して居ります。

六月二十七日 金曜日 晴 当番 小松喜平

朝食の時に初めてであるのでわからずに東海林君より聞いてようやくなした。牛の遊び場が出来上りで夕方より牛を遊ばせる。私しわおそろしく所長先生、阪野が馬屋に入れてくれたので今日わ無事にすごした。

六月二十八日 雲 土曜日 当番 小松喜平

朝食の時に少し早く出来たから蕪を炊ろうとして居た所に所長先生が来て、牛に食せる蕪の分量を聞かれてこたえる事が出来なかつた。頭が悪く聞いてもわすれたために、食事に特に先生より注意せられる。今度よりわすれない様にして食物をあたへる様にする。緬羊にわ清水麩一食六合つつをあたえる。草わなき様にした。

六月二十九日 当番 小松喜平

緬羊にわ清水青草塩わいともなくさない様にして居いた。又朝夜二回に麩六合を用ひる。船越先生より注意ありて牛の居る所にしき草を入れる。

六月参拾日 月曜日 曇（休） 当番 安達弥之輔

豚には残飯全部やりました。緬羊には生草一貫八百匁、一匹に付き塩若干をやりました。所感、畜舎の餌桶を成可「なるべく」清潔にして食せる事、そうすると牛も喜んで食べるし、自分も気持ちよし、又家畜を親切に取り扱ひをせねばならぬ。取り扱ひする場合、余り和魂を持た無いで少し荒魂を持つてせねばならぬ。今日牡の山羊を厩に入るとしたら、山羊が怒つて僕の背中に奮「ウバとルビあり」たので、一目散になつて走り、山羊も僕に着いて走つて来るので、実におつかなく有りました。牛に生草を与える時は弥栄の方を早くしたら、二度目の時は春風の方より与へる事。今日より草苜始まりました。人夫六人約八十貫位。

七月一日 火曜日 雨後晴 当番 安達彌之輔

〔上部に「七月一日、乳牛春風号、発情の兆候があり。種付けを忘るゝ勿れ。西垣」〕

就寝前 六貫、家畜異状無し。午后より四名にて草苜をしました。約七十貫位。

七月二日 木曜日 曇後晴 当番 安達彌之輔

朝仕事三名で草苜をなす。約四十五貫位。

所感、一、成可〔なるべく〕厩を乾燥させて置く事

一、緬羊には毎日清水を与える事

今日田中君、茂木君、鮮牛A・Bを引いて富並に肥料運搬に行きました。

七月三日 木 晴 当番 岩瀬喜三郎

奉仕号新奉仕号、富並迄肥料炊事品運搬に。午後五名で肥出し、計四五十べ。

七月四日 金 雲 当番 岩瀬喜三郎

七月五日 土 雨 岩瀬喜三郎

三食事の残飯は全部豚に。

所感、舎内の敷物は常に乾燥し置く様に。緬羊に敷物入替に際し羊に附着せざる様特に注意せられたし。家畜の取扱は親切丁寧に。家畜は全部異状無し。以上

七月六日 日 曜 雨 当番 佐藤三郎

七月七日 月 曜 日 雲 当番 佐藤三郎

午後四時、牛全部運動場に出場ス。まず二日無事終了しました。

七月八日 火 曜 日 佐藤三郎

所感無し。

七月九日（水曜日） 茂木俊治

所感、本日二時より厩肥出す、八人にて行ふ。午後七時迄厩肥全量四百五拾貫。厩肥は余り長くならないうちに一週間置き位に出して貰ひたい。以上

七月十日 木 曜 日 茂木俊治

所感、今日乳牛及び鮮牛を運動させた処、柵より外に出られ実に弱りました。お互にマセ
〔傍点は○〕棒に注意ませう。以上

七月十一日 金曜日 当番 茂木俊治

所感、本日雨にて家畜運動は中止せり。以上

〔上部に鉛筆で「馬鈴薯種子残物ヲ良く煮テ給スル事」

七月十二日 土曜日 当番 寒河江喜蔵

所感、春風号の発情猛烈なり。夕方運動さす。運動の時注意特に用〔要〕す。

朝草刈、五人（二時間半）

七月十三日 日曜日 当番 寒河江喜蔵

ハキ〔ハギか？〕乾草に馬鈴薯、利用せよと注意あり。

七月十四日 月曜日 当番 寒河江喜蔵

所感、青草は一度に多く刈らづに一日一日間合位の草刈を實行した方が良いと思ふ。

朝草刈五人（二時間半）

肥出し六人（三時間半） 以上

〔上部に「注意、毎朝馬鈴薯五ペト玉蜀黍三升位ヲ一釜ヲ煮テ朝昼夕ト三度ニ別ケテ給ス
ル事。豚ニモ適當ニ分給スル事（舟越）」とある〕

七月十五日 火曜日 当番 五十嵐壽作

一、家畜全部壮健なり。

一、夕方牛の運動をさす。

七月十六日 水曜日 当番 五十嵐壽作

一、家畜全部壮健なり。

一、緬羊、豚の運動に出す。

七月十七日 木曜日 当番 五十嵐壽作

一、家畜全部壮健なり。
 一、緬羊、豚の運動をさす。

所感、三日間当番の任に当り各位の後援の本に無事に過しました事を神に感謝します。
 急告

一、馬鈴薯は腐敗致し居ルのでドンドン煮て飼給する事。

注意

一、馬鈴薯、玉蜀黍ノ煮たものは青草給与前に食はせる様（牛に）

一、穀の給与は青草後に与へる事（緬羊）

一、馬鈴薯、玉蜀黍煮は豚にも一食一貫匁位与へる様

一、日誌には各養畜の飼料全部を記入せられたし。以上

〔以下、赤鉛筆による記入〕

◎乾草黍等ヲ与へ居ヲ青草二代ヘル時ハ

一例 第一日ハ青草二割、第二日三割、第三日四割、第五日五割、第六日六割、第七日七割、第八日八割、第九日九割、十日全部

右ノ如ク必ズ『漸次変更』ヲ行フ事極メテ必要ナリ。

秋末青草ヨリ乾草ニ入ルトキ又全ジ。

若シ漸変ニセザレバ家畜ハ下痢ヲ起シ又糞詰リニモナル。

牛馬ノミナラズ□□□家畜ニモ全様、主飼料ヲ変エヘルトキ必ズ注意スベキ事ナリ。

右ノワケデ□□□□ノ時カラ乾草萩ヲ混□レル。岩村〔赤鉛筆による記入はここまで〕

七月十八日 金曜日 当番 八田又治

今日ハ葉山へ行軍ノ為、朝及ビ晩ハ私ガヤリマシタガ、昼及ビ夜ハ伊藤（正）君ニ御願ヒシマシタ。本日ハ運動ハサレマセンデシタ。（緬羊、豚、山羊ハ運動シタサウデス）家畜全部壮健ナリ。本日ヨリ蚊イブシヲハジムル。

七月十九日 土曜日 当番 八田又治

一、家畜全部壮健

一、家畜運動雨降りノ為中止

一、緬羊ニハ出来得ルダケ萩ヲヤリマセウ

一、モシ出来ル事ナラ草刈ノ内一人ダケ位萩刈リヲヤツテモライタイ

七月二十日 日曜日 当番 八田又治

一、家畜全部壮健

一、豚山羊緬羊ダケ運動サス

一、山羊ノ耳少々豚ニカマル

所感

僕ハ家畜ヲ守リシタノハ今度ガ初メデアリマシタ。牛ハオソロシイ物トバカリ思ツテ居リマシタガ、自分自身出来得ルダケ可愛ガツテヤリマシタラ案外オソロシクナイ物ダト思ヒマシタ。人様ヨリ見レバマダ致〔到〕ラヌ所ハ多ク有リマシタデセウガ皆様ノ応援ヲ得マシテ無事当番ヲ終リマシタノヲ感謝シマス。以上、終リ。

〔上部余白〕相当運動場デ遊ビクセガツイタ時ニハ杉苗床（三年生ノ）側ノ放牧場ニツレ行キ多ク喰ハセル事ヲスベシ。

青草ノ喰ベ方ニ留意シテ充分給餌セヨ、而レテヨリ太ラセル様ニスセヨ。ヨリ身体ヲ掃除シテヤル事（西垣）

七月廿一日 曇時々雨 月 家畜当番 羽角順太郎

朝、緬羊を運動さす。午後より六名にて厩屋出し。豚山羊緬羊、降雨のため中止す。堆肥百五六十貫ト見ル。

人員六名。午後より降雨のため運動を中止す。家畜全部元気であります。

七月廿二日 曇 火 当番 羽角

朝、緬羊を運動さす。午後より牛の運動を行ふ。飼料給与後清水を与える事も大切なりと思ふ。毎朝一回緬羊に清水を与へて貰へ度い。塩モ時々新しい物と取りかへる事も大切なりと思ひます。乾草モ同様。

七月廿三日 曇 ノチ雨 水 当番 羽角

感想、これで畜舎当番も二回目である。三日間は何んら支障無く終りました。三日間の内最トモ感んじた点、多大□□けれども先づ空気の流通を良くする事、それには朝南側北側の窓を開いて充分に空気の流通を良くすることである。なるだけ古い飼料堆肥に投げて新

しい飼料を与へる事。（夜もしくは）晩は飼料を多く与へて貰へたい。以上
 ○家畜全部健康で有ります。午後より降雨タメ牛ノ運動中止す。

七月廿四日 曇降雨 当番 本間直二郎

○家畜全員異状なし

○畜体を掃除す

七月式拾五日 火曜日 朝晴降雨 当番 本間直二郎

○降雨之為運動出来ず。

○乾草を敷いてやる。

七月式拾六日 木曜日 曇后晴天 当番 本間直二郎

注意、畜舎内之清潔整頓。家畜には親切なるべし。豚^{◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎}之食器は不潔なり易き故、勉^{◎◎◎◎}めて清潔にすべき事。

七月廿七日 日曜日 晴後一時雨 当番 大宮門四郎

〔上部欄外に〕家畜以上〔異状〕無シ

所感、今日は親、仔牛は外に出て居つた。此れ敷藁に水分は吸収されて寝ずらき様感じたので乾草ヲ充分ニ敷き給へタリ。又排気窓を早朝起した時に開く様にすべきなり。又食餌桶ヲ充分洗ツテ終へる事。

七月廿八日 月曜日 晴 当番大宮門四郎

〔上部欄外に〕家畜以上〔異状〕無シ

注意、所感、先ヅ春風号、来ル八月三日頃大久保ニ種付ニ連レテ行クコト。又毎日常畜ヲ出シテ運動セシムルニ努力致ス様御願ヒ致シマス。新奉仕号ハ山の内ニ田中君ニ連ラレテ行キ百二四俵米ヲ運ビ上タリ。

七月廿九日 火曜日 晴 当番 大宮門四郎

〔上部欄外に〕家畜以上〔異状〕無シ

備考……何れの家畜に対しても丁寧親切ニ愛育し飼料も平等に給ませう。以上

七月参拾日 水曜日 東南ノ風曇り 伊藤儀一
牛舎に乾草一丸入れたり。

七月参拾一日 木曜日 東南ノ風曇り時々雨 伊藤儀一
三班大人にて肥出し、乾草四丸入れたり。

八月一日 金曜日 伊藤儀一

七月参拾壹日午後二時頃、奉仕号山形県北村山郡西郷村大字名取、矢萩伊太郎様より購入されたり。

所感、日増丸々と太りつゝ行く小牛の顔を見る度事に喉を撫てやる。小牛は嘸愉快気になり増々前へ前へと短い首を伸ばして心持善くやつて居る。其れで自分も何となく満足されるのでした。何の子供も小さい時は可愛いものだと思つて自分はさう云ひたい。

御互の注意

一、豚の食器は不潔なり易いので出来得るならば一日に一回は洗つて後に残飯を入れ与へたら如何でせうか。

二、草刈の際に鎌を畜舎に掛けず出来得るならば農具舎に掛けた方が使用上及外見上にも善いと思ひます。 以上

八月二日 土曜日 晴 当番 海谷久右エ門

八月三日 日曜日 曇り時雨 当番 海谷久右エ門
夕方ニ於テ蚊燻シヲ致シタ。

八月四日 月曜日 時時雨 当番 海谷久右エ門
於テ夕方蚊燻ヲ致シタ。

所感、小牛ガ非常ニ大キクナツテ来タ事、馬鈴薯ヲ手ニ取ツテ一ツツ食サシルト喉ヲナラシテ舐ガツテ食スル。何トナク可愛イ。ソレニ叛シテ春風ハトテモ僕ニハ怖ロシイ。当番ヲヤツタ居タ中デモ春風ニ対シテ馴レル事ニハ行カナカタ。又豚三郎殿トテモ誼マシクテ全ク愛疎〔想〕ガツキル。山羊モ臭サクテ厭レル。緬羊ハ先ヅ頭カラ弱イ物ト思ツテ

居ルカラ気持ヨク遊ンダアノ瞳ガ可愛イ。三日ニ大久保ニ乳牛見学一行二十三名色々ノ御話ヲキイタ。所テ谷風ヤ松影ヲ独立致サシテ飼育シ、夕方ガヨイト思ツタ。四日新奉仕ト高峰ガ富並行キ。以上、終リ。

八月五日 火曜日 当番 八田又治

一、家畜壮健

一、家畜全部運動サス。

一、新奉仕富並行キ。

一、春風大久保種付ケニ行ク。（天沼君坂野助手）夜帰ラズ。

一、夜蚊イブシヲヤル。

八月六日 水曜日 当番 八田又治

一、家畜壮健

一、家畜運動ス。

一、春風今日モ帰場セズ。

一、蚊イブシヲス。

一、夜牛緬羊涼マス。

八月七日 木曜日 当番 八田又治

厩肥、五百貫出ず。

八月八日 金曜日 晴 当番 今野重四郎

朝五時起床、禊後、短期長期一緒〔諸〕に大和働き行ふ。後各自三分担をさだめる。其後僕は畜舎当番にて畜舎の窓を聞き食桶除□□る。昨日より之畜舎の客として富並之高橋力助君、三浦実生先生を乗せて来る馬居れり。めったに□ぬ客故丁寧に取り扱いたり。

奉仕号は売り春風は大久保に居るために畜舎は淋しい。なんだか物足りぬ様な気持したり。午后より上る頃少し麦調整之跡仕末に手伝だつきり馬鈴薯七貫にたるに四時頃迄かゝり

「皆んな一緒〔諸〕懸命やつてる」に「自分ばかり一緒〔諸〕懸命かつても楽な仕事をし
て済まん様な気がした」

八月九日 土曜日 晴 当番 今野重四郎

本日田中君、新奉仕を連れて富並に米醬油運搬に行きたり。朝弥栄より乳四合取りたり。夜大江君弥栄より五合取る。

八月一〇日 日曜日 今野重四郎

本日富並之高橋兄の飼馬來客。毎日弥栄より乳を取つて居るから馬鈴薯や藪等をどつさり給与して下さい。

八月十一日 月曜日 晴 当番 石井説雄

八月十二日 火曜日 晴雲風 当番 石井説雄

所感、牛に水を入れる場合は藪、馬鈴薯をよくつぶして水に良く混合して給ゑて下されたくお願致します。

八月拾參日 水曜日 晴 当番 安達弥之輔

八月拾四日 木曜日 晴後曇 当番 安達

〔八月十五日〕

厩肥六百貫出す。

八月拾六日 土曜日 曇 当番 安達

所感、牛の体を丁寧ブラシを持つて除除〔掃除？〕してやると牛も喜んで我にすり寄る。其時の□き、実に愉快である。又、餌を与える時牛は皆目迎して我を待つて居る。食器は成可丁寧に洗條〔洗滌〕して置く事。緬羊には特に清水、塩を入れて置く必要が有る。大宮君には毎晩手続を受けまして御苦労様でした。

八月十七日 日曜日 晴 当番 岩瀬喜三郎

鮮牛奉仕号、富並に田中君と共に藪、米糠運搬に。

八月拾八日 月 晴 当番 岩瀬

八月十九日厩肥三百貫出す。「ママ」

八月二十日 水 雨後晴 当番 茂木俊二

八月二十一日 晴 木曜日 当番 茂木俊二

厩肥朝仕事ニ出ス人參名ニテ畜舎当番トモ!!（四百貫）

八月廿二日 晴 金曜日 当番 茂木俊二

今日午後より山ノ内に飯米運搬に行きたり、田中君、茂木。「新奉仕、高峯」労働時間四時間、重量四十八貫參俵。以上。

所感、役牛の労働をもつと丁寧に託して貰ひたい。

八月二十三日 晴 土曜日 当番 寒河江

早朝、夕方、家畜運動場に出す。炊事用の食塩を五合用ふ。夜カエブシする。

八月二十四日 晴 日曜日

朝夕二回牛等運動場に出す。

八月式拾五日 月曜日 晴 当番 寒河江

乳量、八月二十三日 朝三合、夕五合、八月二十四日朝四合、夕二合、八月二十五日朝六号、合計二升

鮮牛（新ホーシ）富並に行き。錫詰一箱八貫。ひやむき一箱十二貫、種油一罐四貫。合計二十四貫匁。時間六時間。（田中君行）

八月二十六日 晴 火 当番 小林洸

八月二十七日 水曜日 当番 小林洸

八月二十八日 木曜日 当番 小林洸

所感、朝牛乳七合、夕方二合、家畜健康以上〔異状〕ナシ。たがいに清潔にしませう。終

八月二十九日 金曜日 晴 当番 茂木俊二

今日午後一時半ヨリ厩肥ヲ出ス、四〇〇貫、人員当番共五人。四人（須貝君。小林君。笠原君。伊藤君。

「新奉仕」号田中君トトモニ富並ニ行ク。労働時間六時間、運搬品名、醤油及び玉葱等、式拾五貫。第一日、以上。

八月卅日 土曜日 晴 後少々雨アリ後曇 当番 同上

今日は牛全体異状なし。新奉仕号田中君トトモニ富並行キ。

弥栄、朝搾乳八合を得たり。 第二日、以上。

八月三十一日 日曜日 曇晴 当番 同上

今日は搾乳量、朝老升壹合、昼ナシ、晚九合斗式升、家畜全部異状なし。

所感、本日は養鶏の方に手伝ふ。炊事にも漸次の間手伝ふたり。 以上、第参日

九月一日 月曜日 曇晴 当番 同上

牛乳搾量、朝一升、昼五合、晚五合、計二升

九月二日 火曜日 晴少々雨 当番 同上

牛乳搾量、朝一升式合、晚一升、計式升式合也。

鮮乳本山下山す（富並行き）、新奉仕号田中君と共に米糠及び玉葱荷物等、計式拾八貫にして労働時間は六時間。午後五時到着したり。 第五日、以上。

九月参日 水曜日 曇 当番 同上

今日の牛乳量、朝一升式合、晚ナシ、計一升式合

本日「新奉仕」「高峯」田中、羽角、両君とともに富並行き、新奉仕は菓子二箱十六貫、高峯は空俵二束六貫、計二拾二貫、労力六時間（各）計十二時間。

九月四日 木曜日 細雨後 当番 朝茂木俊二、昼晚石山長衛

所感、無事今日迄任務をなし終へたる事は実に喜びに耐へません。

注意事項

- 一、緬羊には米糠を与へざる事
- 一、放牧するトキは周囲を注意すべき事
- 一、搾乳の時には余り牛をいぢめざる事、以上
- 一、搾乳する時は仔牛を前晩が明朝に離して搾乳する事
- 一、乳牛及び鮮牛の仔牛には乗らざる様に御注意ありたし
- 一、牛には生草食後米糠水及び穀水を与ふる事、以上 茂木

九月五日 晴時々曇雨 当番 渋谷繁太郎

夜牛乳搾る、一升二合

九月六日 晴 当番 渋谷

九月七日 晴 当番 右と同

（感想）未だなれていないせいか短時間にて終やす事の出来ないのは遺憾なり。恐しいと思つていた牛が余程可愛い様になつて来たのは面白かつた。兎角恐しいと思つてかゝると一層おそろしい様な気がして、平気でかゝれば可愛くなるものであると云ふ事が判つた。

九月八日 晴 当番 武田立男

九月九日 晴 当番 武田立男

鮮牛の親は小林君と富並に行く。

九月拾日 晴 当番 武田立男

九月拾壹日 晴 当番 相田助左エ門

朝弥栄乳一升三合出ス。晚一升八合、今マデノレコードナリ。朝鮮牛二頭富並ニライ麦ニ表〔俵〕ツツ運搬。春風号大久保ヨリ鈴木、長岡両君ニヨリ午後八時半ニ着ク。

九月十二日 雨 当番 相田助左エ門
 弥栄乳、朝八合、晚一升六合

九月十三日 晴 当番 相田助左エ門
 弥栄出乳量、朝二升、晚一升六合
 鮮牛二頭富並行き。

三日間十数頭の家畜を何んらの別状もなく無事に養ひ過した事を氣持よく思つて居ります。家畜は何にも驚く程おそろしくないもんだ。自分が育てそれを自分が利用する事は何んと云ふ人間らしき事でせう。此れからは農家には必ず家畜を飼わねばならんと深く感じました。私も総べ「総て」が許す限り多くの家畜を飼ふ考へなり。

九月十四日 日曜日 晴 当番 佐藤三郎

九月十五日 月曜日 当番 佐藤三郎
 弥栄牛乳、一升五合

九月十六日 火曜日 雨後雲り 当番 佐藤三郎

九月十七日 水曜日 雨降雲り 当番 小松喜平

九月十八日 木曜日 雨降 当番 小松

九月十九日 金曜日 午前中雨、午后晴 当番 小松

二回目ノ家畜当番で生草を喰せる様になりて初めてであるので様子がわからなく、阪野先生よりの聞いて、様やく「ようやく」二回目の当番を何事もなく過した。

阪野君の注意、鮮牛二頭、弥栄にわ生草を切りてくわせる様に、緬羊にわ出来るたけやわらかな草をくわせる様に、其れで緬羊にわハギヲ一□でく寄せた。

九月廿日 土曜日 朝雲後晴 当番 東海林弘

牛乳、朝壺升式合、晚五合

九月廿一日 快晴 日曜日 当番 東海林弘
牛乳、朝一升七合、夜一升六合

九月廿二日 月曜日 晴タリ雲タリノオ天気デシタ 当番 東海林弘
牛乳、朝二升二合、昼無シ、夜一升二合

今日ヲ以テ今年始メテ家畜当番三日間終リマシタ。昨年ノ事ハスツカリ忘レテ、今年ノ最初ノ時小松君ニ色々ナ事ヲ聞テ始テ昨年ノ事ヲ思ヒ出シテ、無事ニ家畜当番ヲ畢リマシタ。

九月二十三日 雲り 当番 佐藤賢三
牛乳、朝一升五合、夜一升八〔九?〕升〔合〕

九月二十四日 晴れ後雲り 当番 佐藤賢三
牛乳、朝一升、夜一升二合

九月二十五日 晴れ 当番 佐藤賢三
牛乳、朝若干、夜一升。

三日の家畜当番を無事終つた事は、長岡、坂野両君に聞き世話になつて終つた事は、両君のおかげだと思ます。又先生のおかげだと思ひます。
注意、豚の物入に残つた物を取りかへる事。緬羊にやわらかい草を食せる事。

九月廿六日 晴 当番 鈴木三郎
出来得る限り親切にしてやつた所存であるが、弥栄の乳量不足は残念だつた。二升五合出る。鮮牛新奉仕号富並行き夕暮帰場。他異状なし。

九月廿七日 晴後雨 当番 鈴木三郎
鮮牛高千穂富〔富並〕行、麦運搬、午后五時頃帰る。今日午前中坂野君他四名厩肥出しをやる。牝豚足を傷める。元気な奴だが相当弱つて居る。□して横寝して居るのは可愛そうである。舎内が気持よくなつた為か牛も元気だ。他異状なし。

〔以下赤字〕夜礼拝後十〆青草をやる。〔赤字ここまで〕

九月廿八日 晴 当番 鈴木三郎

鮮牛新奉仕号富並行、日暮帰る。弥栄号乳量、朝二升、晚六合。他異状なし。但し牝豚昨日より元気あり。

九月廿九日 雲雨 当番 石井説雄

所感、弥栄号種付為大久保迄行く。大宮、後藤兄が之の頃の雨雲勝の天気ではなるべく天氣の良い時（一日中でも）を見計つて運動をやらせる事が必要であると思ふ。

今朝何如〔如何〕なる理由か弥栄号のやつは乳を多量に出さなかつた。わづか一升位しか出さぬ甚だ残念である。礼拝后青草拾貫匁をやる。

九月卅日 雲晴 当番 石井

〔上部余白に横書きで〕9月30日、午后11時頃大久保に種附に行き弥栄号は大元氣にて登場致したり。あまり後いので阪野兄、鈴木兄、伊藤兄、□迎いに行く。誠に御苦勞であつた。

十月一日 晴少々風 当番 石井

感想、三日間を通じて家畜当番としての感じる点は赤裸々に云えば当番を云ひ渡たされた時は少しは変な氣もするが、毎日全力を尽して家畜を親切丁寧にて飼料を充分やりて牛の満足して食ふ様を見ては、労苦をわすれて或る何者かを痛切に感ずるのである。之の三日間の意義ある畜舎当番の愉快であつた事を神に感謝する。以上
備考、三日間家畜全部異状ありません。分けて豚等は元氣であつた。

十月二日 雨 木曜日 当番 今野重四郎

家畜全部に異状有りません。今日は濃厚飼料多く与ゑ過ぎたかと思いましたが、青草の無い關係から少し余計給与致しました。弥栄より乳を取つてるから他の牛より少し余計給与して居ります。二十日ばかり見ないうちに新奉仕の子供の色が黒々して黒光りするのには驚く。弥栄の子供の大きくなつたのも驚く外はない。あの分では親弥栄よりも春風よりも大きくなるかも知れません。十月一日の当番終り。

明日は家畜に馬鈴薯馳走する考ゑです。本日乳、朝六合、夜五合取りたり。

十月三日 金曜日 雨午后晴 当番 今野重四郎

十月四日 土曜日 雲り少し晴れる 当番 今野重四郎

所感、家畜当番も本日で終りたり。家畜全部異状なく終へ得た事を感謝する。三日目頃になると家畜も慣れて可愛いものだ。一諸懸命やつたつもりだが家畜は手入を充分に行ふ事出来ず遺憾だつた。本日不注意の為に指を切りて先生方に申わけなかつた。まだまだ自分の仕事に対して真面目さを欠いてると思ふと、そして家畜当番やつても手間取り牛や豚迄が待遠しい様な顔付して居る。なんと言ふ自分の不真面目さの一端が家畜迄及ぼしたる事は遺憾であつた。今後充分おつついて仕事して先生の言はれる通り一步一步あせらず与ゑられた使命分担を行つて行かねばならん事を、指を切りてより一そう強く感ぜられたり。家畜全部異状有りません。終り

〔上部余白に〕西垣〔西垣〕は丸で困んである〕收穫期となつて、残物多く出る。之の利用大いに家畜当番の頭の働かせ方に在り。押切りの使ひ方は充分注意しないと危い。又其置場所を注意すべし。万一足で踏んだら大負傷をする。

拾月五日 日曜日 当番 伊藤正憲

所感、今日第二会〔回〕ノ当番ニアタリマシテ大イニ喜ンデ致シマシタ。現在ハ農村ノ（フケイキ）事件ニツキ蔬菜ハ排斥ト云フ事ニナリテ、家畜ハ第一ノ要件ト思イマス。内デモ兎豚ハ摘〔適〕当ト思ツテオリマス。今日春風号大久保ヨリクル。新奉仕今日富並ニ行ク。

十月六日 月曜日 当番 伊藤正憲

所感、毎日糞ヲ五升内外モヤルニハ家畜ハ余リ損シテハキナカト思イマス。弥栄号牛乳一升、朝一升夜七合。新奉仕号仕事富並行キ。今日ヨリ経済法デ糞ヲツカワナイデ農場産物ヲ私用シテ見マシタラ、

○牛 大↓六疋、子↓二疋

一日、青草二十五ㇺ 一ヒキアタリ 三ㇺ五〇匁 一食アタリ一ㇺ二百匁、

他ササギカラ五〇匁、雲苔五〇匁、水三升

○ヤギ大二

青草二ㇺ、一ヒキアタリ一ㇺ、ササギカラ一ㇺ

○緬羊大二

ハギー一匹、一ヒキアタリ五〇〇匁、麩↓二升、一升アタリ

○豚大二

残食一ケ、雲苔少シ

右ノ分デ家畜ヲ立テテ行クナラ理想的ト思フ。

十月七日 火曜日 当番 伊藤正憲

所感、今日は一回分で平均

牛 草九匹五〇〇匁、馬鈴薯一匹、雲苔五匹、残食一ケ

羊 草一匹、雲苔五〇〇匁、ササギカラ五〇〇匁

緬羊 ササギカラ五〇〇匁、麩一升、ハギー一匹

豚 残食一ケ 以上三日間終り。（奉仕号富並行）牛乳、朝一升二合、夜一升

十月八日 水曜日 晴 当番 大宮門四郎

畜舎内を常に清潔に殊に家畜の床に充分に敷草を敷いて□□餌桶を毎度洗滌して給へることにしませう。

〔上部余白に〕松風発情表らわる。

拾月九日 木曜日 晴 当番 大宮門四郎

日増寒気加り、夜等は非常に寒さを感じる様になりましたので、夕方は雨戸を閉めて朝換気して新鮮なる空気を室内に入れる様に致しませう。搾乳量一升三合（朝）

拾月拾日 金曜日 曇り 当番 大宮門四郎

搾乳量、朝一升八合、夜一升三合

感想及注意

一、施飼前必ず一度洗ひ流した後給飼する事、此れ飼料経済にし又衛生上良き事と思いますから。

二、牛乳の搾乳量は必ず日誌に記入致す事。

三、牛の発情有無を見のがすべからず。弥栄十九日頃より、春風は廿二日頃より。

四、農作物の廃物利用して給へる事。

五、充分飼料配合してやることも大切です。 以上

拾月拾老日 土曜日 曇り小雨 当番 大宮門四郎

搾乳量、朝一升五合

厩肥産量六百貫

拾月拾二日 日曜日 曇 当番 大宮門四郎

搾乳量、朝一升五合、夕方二升

拾月拾三日 月曜日 晴初霜降る 当番 大宮門四郎

搾乳量、朝二升、昼六合

拾月拾四日 火曜日 曇西風 当番大宮門四郎

注意：生草又干物を座切した物を給へる場合には早く給へる事。又麩に米糠水等を充分混合して給する様にすべきなり。又乳房張りて乳を出さぬ時は仔牛を一時付ける事。搾乳量、朝一升五合、夜一升式合。

拾月拾五日 水曜日 晴 当番 大宮門四郎

搾乳量、二升五合、夜五合

切物配合物一番早く給ふべきなり。先つ餌桶を流水して、又水を貯へ其れに配合物を入れ良く水分を吸収せしめたる後麩に米糠又燕麦類を撒布して充分攪拌すべし。

拾月拾六日 木曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、二升一合、夜一升六合

朝鮮牛二頭富並に甘藷等を付けて行きたり。須藤君山形に牛乳一升持参して行きたり。

拾月拾七日 金曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、二升一合、夜一升七合

拾月拾八日 土曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、一升七合、夜一升六合

現在の飼料配合に依りて給へた結果、最小の濃厚飼料を増して給ゑるならば早く肥るでは無きかと感じました。

拾月拾九日 日曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、二升、夜八合

厩肥産量参百貫（新奉仕発情の形見る）

拾月二拾日 月曜日 雨 当番 大宮

搾乳量朝二升三合、夜一升貳合。甘藷の蔓は何れの家畜でも非常に好んで食します。

拾月二拾一日 火曜日 曇 当番 大宮

搾乳量朝一升六合、夜四合。今日は牛は一般に食欲減退を呈し、殊に弥栄号は玉蜀黍を食せず。

拾月廿二日 水曜日 晴 当番 大宮

朝の搾乳量壹升九合、夜壹升三合。

拾月廿三日 木曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、二升、夜一升五合

拾月廿四日 金曜日 晴 当番 大宮

搾乳量、二升、夜一升

拾月廿五日 土曜日 曇 当番 大宮

搾乳量、二升四合、夜一升三合

拾月廿六日 日曜日 雨 当番 大宮門四郎

搾乳量、二升一合、一升二合

厩肥産量参百貫余、労力三人。

拾月廿七日 月曜日 曇 当番 大宮

搾乳量、一升八合、夜一升六合

飼育上の注意、好んで沢山食ふ様な調理法を考へること、又各個体の飼料に対する対する好き嫌ひを知ること。

拾月廿八日 火曜日 曇 当番 大宮

搾乳量、一升九合、夜一升五合

拾月廿九日 水曜日 雨 当番 今野重四郎

搾乳二升一合、一升五合

綿羊ばかりでなく牛山羊にも少量の塩を給与した方が善いと思ひます。大宮兄の留守中、当番にあたり兄の飼料配合には感じ得る所あり折角大宮兄が肥やしたる家畜を一日たりと雖もやせたと云はれん様に馳走する考へである。以上。

九月（十月）三十日 木曜日 雲り 当番 今野重四郎

搾乳朝夕合せて三升四合、敷藁として乾草二拾貫敷きたり。家畜異状無し。松風号発情来たり。

九月（十月）三十一日 金曜日 雨午后より雲り 当番 今野重四郎

搾乳二升四号、一升五合

家畜全部異状無く無事当番を終はし得たり。努力足らずして家畜に手入充分行ふ事出来ず遺憾に思ふ（乳牛弥栄）には濃厚飼料余計給与した方が善いと思ひます。終り。

拾壹月一日 土曜日 曇 当番 大宮

搾乳量一升八合、一升三合

今日山羊は昼頃尾花沢の買入の手に渡りたり。（代金五銭）

拾壹月二日 日曜日 雨 当番 大宮

搾乳量一升八合、一升二合

拾壹月三日 月曜日 雨雪 当番 大宮

搾乳量昼二升三合、適當の運動に依りて食欲を増進せしめ得る。牡豚一頭殺して食用とす。

拾壹月四日 火曜日 雨雪 当番 大宮

搾乳量二升七合、一升六合

寒氣増して来ましたので開窓も処々行ひて排氣換だけに止めて室内を温くする様に致しませう。

拾壹月五日 水曜日 みぞれ 当番 大宮

搾乳量三升

拾壹月六日 木曜日 みぞれ時々雲り 当番 今野重四郎

搾乳量二升、一升

拾壹月七日 金曜日 晴 当番 今野重四郎

搾乳二升三合、一升

本日新奉仕高峯富並に大豆大根運搬、六拾貫匁運搬。

拾壹月八日 土曜日 晴 当番 今野重四郎

富並に朝鮮牛二頭大豆運搬四俵。家畜異状無し。

拾壹月九日 日曜日 雲り 当番 今野重四郎

搾乳二升五合、一升

家畜全部異状無し。

拾壹月十日 月曜日 当番 今野重四郎

搾乳二升二合、一升

当番無事に終へたる事を喜ぶと共に今日限りで牛と別れると思ふとなんだか物淋しい気がする。